

連合東北ブロック 西日本豪雨災害支援ボランティア活動始まる!!

頂いた支援に対する恩返しの気持ちで懸命に作業にあたる

～ 連合福島は、第一次派遣団に、4名を派遣（9/7～9/10）～

連合福島は7月に発生した西日本豪雨災害において、連合東北ブロック「西日本豪雨災害支援ボランティア活動」として9月の各週末を活用しボランティアの派遣を決定した。第一次派遣団として連合福島から4名（内局1名、自治労2名、電力総連1名）、東北ブロックとして11名の参加者により、「くれボランティアセンター・天応サテライト」において天応地区の災害支援にあたった。



連合東北ブロック 第一陣の皆さん（11名）

1日目は雨天により、ボランティアが中止となり、急きよ被災地の視察となった。被災地は狭隘な住宅地であり、上流からの土石流により周辺の家々が被害を受け、2ヵ月たった現在も手つかずの場所も多くあった。重機が入れない場所も多く人海戦術に頼らざるを得ない状況で、復旧までは時間と労力がまだまだ不足している。特に、呉市は被災時に交通網が遮断されていたが、道路の復旧に続き滞在中の9日からJR呉線の運転が再開され復旧が進んでいる反面、現地を訪れるボランティアが9月以降に減少しているとのことで、今後の活動の見通しが難しくなっている。2日目も雨天のため、呉市役所にて生活支援物資の運搬を実施した。作業にあたっては参加者の士気は高く、この間の福島への支援の感謝を示す上でも懸命に作業にあたった。第一次派遣団は雨天のため満足な活動ができなかったことは残念だが、ボランティアが減少している中で連合ボランティア派遣への期待は大きい。後続の派遣団に思いを繋ぎ第一次派遣団の活動報告とします。



① 土石流が発生した大屋大川



②は大屋大川の下流、③からは上流に向かった状況



2日目の呉市役所での生活支援物資の運搬